

## シラバス情報照会 照会画面

条件指定画面 結果一覧画面 照会画面

## シラバス情報

## 授業情報

授業コード	4151330000	開講キャンパス	五橋
授業開講年度	2023年度		
科目コード	5102129920	科目分類	専門科目
科目名称	原典講読 B		
科目英字名称	Reading of Original Texts B		
単位数	1.0		
履修期	後期授業	抽選対象	対象外
代表教員番号	1923836	シラバス投稿状況	投稿完了
担当者	房 賢嬉		
テーマ	メタファーが織りなす言語・思考・行動		
講義内容	<p>私たちは抽象的な概念を理解するために、具体的でわかりやすい別の概念を用いることがあります。その代表的な例として「TIME IS MONEY(時は金なり)」があげられます。「お金」=「貴重で限りある資源」という社会・文化的経験を基盤にし、「時間(お金と同様に貴重で限りある資源)」という抽象的な概念を理解しているわけです。</p> <p>本授業で取り上げる『Metaphors We Live By』の著者、George LakoffとMark Johnsonは、メタファーは文学作品のレトリックにとどまらず、人間の思考過程全般を支えていると主張しています。本授業では、文献講読を通して日常言語にあふれているメタファーについて知り、メタファーの本質に迫ります。毎回提出した事前・事後課題はmanabaやクラスで共有し、フィードバックを行います。</p>		
達成目標	<p>①英語の専門書を精読し、理解することができる。</p> <p>②比喩表現(メタファー、メトニミー、シネクドキ)に関する基本的な事項を説明でき、かつ日本語の分析に用いることができる。</p> <p>③メタファーが言語活動のみならず思考過程や行動様式に至るまで、日常の営みのあらゆるところに浸透していることを理解する。</p>		
授業計画 第1回	<p>【事前学修】第12章を読む(発表者はレジюмеを作成する)</p> <p>【授業内容】第12章 The Grounding of Structural Metaphors</p> <p>【事後学修】「The Grounding of Structural Metaphors」のまとめ&amp;ふり返しを書く。</p>		
授業計画 第2回	<p>【事前学修】第13章(p.61-64)を読む(発表者はレジюмеを作成する)</p> <p>【授業内容】第13章 The Grounding of Structural Metaphors</p> <p>【事後学修】「The Grounding of Structural Metaphors」のまとめ&amp;ふり返しを書く。</p>		
授業計画 第3回	<p>【事前学修】第13章(p.64-68)を読む(発表者はレジюмеを作成する)</p> <p>【授業内容】第13章 The Grounding of Structural Metaphors</p> <p>【事後学修】「The Grounding of Structural Metaphors」のまとめ&amp;ふり返しを書く。</p>		
授業計画 第4回	<p>【事前学修】第14章(p.69-72)を読む(発表者はレジюмеを作成する)</p> <p>【授業内容】第14章 Causation: Partly Emergent and Partly Metaphorical</p> <p>【事後学修】「Causation(p.69-72)」のまとめ&amp;ふり返しを書く。</p>		
授業計画 第5回	<p>【事前学修】第14章(p.72-76)を読む(発表者はレジюмеを作成する)</p> <p>【授業内容】第14章 Causation: Partly Emergent and Partly Metaphorical</p> <p>【事後学修】「Causation(p.72-76)」のまとめ&amp;ふり返しを書く。</p>		
授業計画 第6回	<p>【事前学修】第15章(p.77-81)を読む(発表者はレジюмеを作成する)</p> <p>【授業内容】第15章 The Coherent Structuring of Experience(1)</p> <p>【事後学修】「The Coherent Structuring of Experience(p.77-81)」のまとめ&amp;ふり返しを書く。</p>		
授業計画 第7回	<p>【事前学修】第15章(p.81-86)を読む(発表者はレジюмеを作成する)</p> <p>【授業内容】第15章 The Coherent Structuring of Experience(2)</p> <p>【事後学修】「The Coherent Structuring of Experience (p.81-86)」のまとめ&amp;ふり返しを書く。</p>		

授業計画 第 8 回	【事前学修】 第16章(p.87-91)を読む (発表者はレジюмеを作成する) 【授業内容】 第16章 Metaphorical Coherence 【事後学修】 「Metaphorical Coherence (p.87-91)」 のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第 9 回	【事前学修】 第16章(p.87-91)を読む (発表者はレジюмеを作成する) 【授業内容】 第16章 Metaphorical Coherence 【事後学修】 「Metaphorical Coherence (p.91-96)」 のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第 1 0 回	【事前学修】 第18章(p.106-110)を読む (発表者はレジюмеを作成する) 【授業内容】 第18章 Some Consequences for Theories of Conceptual Structure(1) 【事後学修】 「Some Consequences for Theories of Conceptual Structure (p.106-110)」 のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第 1 1 回	【事前学修】 第18章(p.110-114)を読む (発表者はレジюмеを作成する) 【授業内容】 第18章 Some Consequences for Theories of Conceptual Structure(2) 【事後学修】 「Some Consequences for Theories of Conceptual Structure (p.110-114)」 のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第 1 2 回	【事前学修】 第19章(p.115-119)を読む (発表者はレジюмеを作成する) 【授業内容】 第19章 Definition and Understanding(1) 【事後学修】 「Definition and Understanding (p.115-119)」 のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第 1 3 回	【事前学修】 第19章(p.119-125)を読む (発表者はレジюмеを作成する) 【授業内容】 第19章 Definition and Understanding(2) 【事後学修】 「Definition and Understanding (p.119-125)」 のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第 1 4 回	【事前学修】 第20章(p.126-132)を読む (発表者はレジюмеを作成する) 【授業内容】 第20章 How Metaphor Can Give Meaning to Form (1) 【事後学修】 「How Metaphor Can Give Meaning to Form (p.126-132)」 のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第 1 5 回	【事前学修】 第20章(p.132-138)を読む (発表者はレジюмеを作成する) 【授業内容】 第20章 How Metaphor Can Give Meaning to Form (2) 【事後学修】 「How Metaphor Can Give Meaning to Form (p.132-138)」 のまとめ&ふり返りを書く。
授業計画 第 1 6 回	
授業計画 第 1 7 回	
授業計画 第 1 8 回	
授業計画 第 1 9 回	
授業計画 第 2 0 回	
授業計画 第 2 1 回	
授業計画 第 2 2 回	
授業計画 第 2 3 回	
授業計画 第 2 4 回	
授業計画 第 2 5 回	
授業計画 第 2 6 回	
授業計画 第 2 7 回	

授業計画 第28回	
授業計画 第29回	
授業計画 第30回	
成績評価方法	発表&授業での積極性(40%)、授業ごとの課題(30%)、レポート(30%)により総合的に評価する。評価基準はルーブリックの形で授業時に公開する。 ※提出課題や発表の内容に関しては、授業中に口頭でフィードバックする。 ※4回以上欠席した場合は、単位の修得資格を失う。
学修に必要な準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートと辞書を毎回持参してください。</li> <li>・自分の担当箇所以外の箇所もしっかり読んでください。</li> <li>・円滑な議論のために、毎回予習と復習を行ってください。</li> </ul>
関連して受講することが望ましい科目	日本語学、日本語学特論
テキスト	Metaphors We Live By.George Lakoff & Mark Johnson著 授業時にプリントを配布します。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瀬戸健一(2017)『時間の言語学－メタファーから読みとく』ちくま新書</li> <li>・瀬戸健一(2011)『メタファー思考－意味と認識のしくみ』講談社現代新書</li> <li>・谷口一美(2006)『認知言語学』ひつじ書房</li> </ul>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回の授業で受講方法に関する詳しい説明および発表スケジュールの作成を行います。履修希望者は必ず出席してください。</li> <li>・この授業では、manabaを使用します。wifiにつなげられる端末を用意し、manabaを使用できる状態にしておいてください。</li> <li>・オフィスアワーに代わり、担当教員のメールアドレスを開講時に公開します。また、manabaの個別指導機能も使用します。</li> </ul>
カリキュラム中での位置付け及び教育目標との関連	この科目とディプロマ・ポリシーとの関係については、学科の「カリキュラムマップ」を参照のこと。 【アクティブラーニング科目】
添付ファイル1	説明1
添付ファイル2	説明2
添付ファイル3	説明3
添付ファイル4	説明4
添付ファイル5	説明5
関連URL1	
関連URL2	
関連URL3	

## 教室情報

項番	履修年度	開講期	曜時	使用開講期	教室
----	------	-----	----	-------	----

## カリキュラム情報

項番	学生区分	所属区分	学部	学科	専攻・コース	適用入学年度
1	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2015年度～2016年度
2	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2015年度～2018年度
3	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2017年度～2018年度
4	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2019年度～2019年度
5	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2019年度～2100年度
6	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科		2020年度～2100年度
7	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2015年度～2016年度
8	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2015年度～2018年度
9	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2017年度～2018年度

10	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2019年度～2019年度
11	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2019年度～2100年度
12	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	ドイツ語コース	2020年度～2100年度
13	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2015年度～2016年度
14	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2015年度～2018年度
15	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2017年度～2018年度
16	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2019年度～2019年度
17	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2019年度～2100年度
18	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	フランス語コース	2020年度～2100年度
19	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2015年度～2016年度
20	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2015年度～2018年度
21	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2017年度～2018年度
22	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2019年度～2019年度
23	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2019年度～2100年度
24	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	中国語コース	2020年度～2100年度
25	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	韓国・朝鮮語コース	2015年度～2016年度
26	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	韓国・朝鮮語コース	2015年度～2018年度
27	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	韓国・朝鮮語コース	2017年度～2018年度
28	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	韓国・朝鮮語コース	2019年度～2019年度
29	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	韓国・朝鮮語コース	2019年度～2100年度
30	学部生	学部生	教養学部	言語文化学科	韓国・朝鮮語コース	2020年度～2100年度

戻る(X)